



海岸ごみ 69%がプラ

県が2023年度に実施した海岸ごみ調査によると、人工ごみ全体の体積のうちプラスチックが69%に上り、このうち4分の3はペットボトルなど日頃の生活で出る陸域からの物だった。調査面積当たりの人工ごみの量は4年前から微増した。県は「ポイ捨てをしないなど、一人一人が適切な処理を意識することで、海のごみを減らす大きな効果が得られる」と呼びかけている。



おおいた

地点で、海岸清掃活動の少ない10月と12月に計2回調査した。

県によると▽和間海岸(宇佐市)▽松津漁港海岸(豊後高田市)▽守江港納屋地区(杵築市)▽下梶寄海水浴場(佐伯市)の4トボトルやポリ袋など陸域由来の物が76%を占めた。漁具など海域由来の物は、カキ養殖で貝同士の間隔を空けるために使うパイプが



海岸に落ちていたペットボトルやパイプなどのプラスチックごみ。7月、佐伯市鶴見の下梶寄海水浴場

23年度調査 県「責任持って処理して」

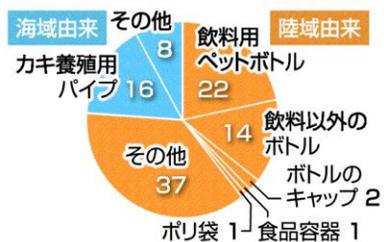
調査1回当たり100平方メートルに平均40・9粒の人工ごみがあった。19年度に「県きれいな海岸づくり推進計画」の改定に伴い実施した調査では38・5粒で、6%増となった。

パイプは養殖の盛んな広島県などから流れ着いたと考えられ、同県が呼びかけや対策をしているという。

大分県循環社会推進課は「ペットボトルなど生活関連のごみついて「自分が使ったものは責任を持って処理してほしい」と話している。」

(牧里保子)

プラスチックごみの内訳



※単位は%。小数点以下を四捨五入しているため合計は100%にならない



〔問①〕 プラごみのうちペットボトルやポリ袋など陸域由来の物は何%でしたか。

76%

〔問②〕 ①のうち、飲料用ペットボトルは何%でしたか。

22%

〔問③〕 漁具など海域由来の物では、特に何が多かったですか。

カキ養殖で貝同士の間隔を空けるために使うパイプ

〔問④〕 ごみの量は4年前に比べ微増しています。ゼロにするためにはどうしたら良いと思いますか。考えよう。

自由記述